

日本の株式市場

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

市場の動向

日本株式市場の代表的な指数である東証株価指数 (TOPIX) は、2月26日比で4.89%上昇しました。週初は先週末の上昇を受けた戻り売りによる下落からスタートしましたが、3月に入り堅調な推移となりました。先週末までの相場の波乱要因となっていた原油価格が底堅く推移したことに加え、米国経済指標の好転を受けた円高不安の後退など外部環境の改善を好感した買いが優勢となりました。週末に米国雇用統計を控えていることから積極的な売買は手控えられましたが、大きく売り込む動きも見られず今年初の4日連続上昇で週末を迎えました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 8日 GDP (国内総生産、10-12月期、2次速報値)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

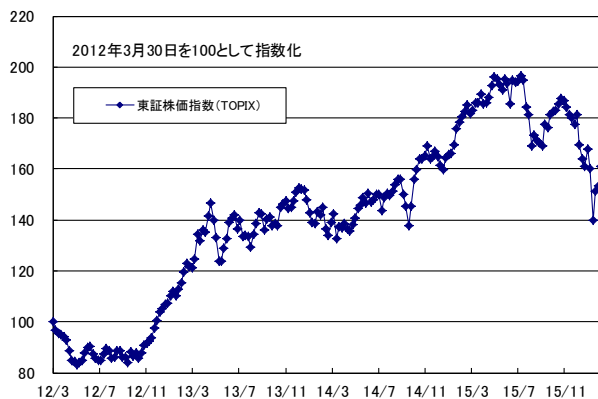
先週の騰落率

4.89%

先週の相場動向



<期間> 2012年3月30日～2016年3月4日



東証株価指数 (TOPIX)	2016/2/26	2016/3/4	騰落率
	1,311.27	1,375.35	4.89%

<出所> ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

東証株価指数 (TOPIX) の指数値及び TOPIX の商標は、株式会社東京証券取引所 (以下「東証」といいます。) の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用など TOPIX に関するすべての権利及び TOPIX の商標に関するすべての権利は東証が有します。

世界の株式市場

市場の動向

海外株式市場全体の動きを表す代表的な指数である MSCI-KOKUSAI 指数は、2月26日比円ベースで、3.26% 上昇しました。

米国株式市場 (現地通貨ベース) は、市場予想を上回る米経済指標の発表によって景気減速懸念が後退したことに加え、中国経済の安定化への期待や、ECB (欧州中央銀行) の追加金融緩和策への期待が広がったことなどを好感し、上昇しました。

欧州株式市場 (現地通貨ベース) は、商品市況の上昇、好調な米経済指標や ECB の追加金融緩和策への期待などを受け、上昇しました。

アジア (日本を除く) オセアニア株式市場 (現地通貨ベース) は、商品市況の上昇や、中国人民銀行 (中央銀行) の預金準備率引き下げなどを好感し、上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 8日 独鉱工業生産指数 (1月)
- 9日 米卸売売上高 (1月)
- 10日 ECB 金融政策

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

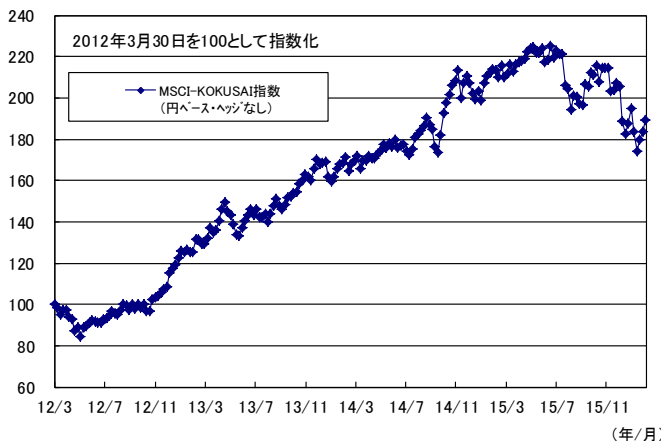
先週の騰落率

3.26%

先週の相場動向



<期間> 2012年3月30日～2016年3月4日



MSCI-KOKUSAI 指数 (円ベース・ヘッジなし)	2016/2/26	2016/3/4	騰落率
	2,229.03	2,301.78	3.26%
円/ドル	113.93円	113.81円	-0.11%
円/ユーロ	124.48円	125.27円	0.63%

<指数出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

<為替出所> 当該日ロンドン時間16時発表のWMMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

MSCI-KOKUSAI 指数は、MSCI が開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

日本の債券市場

市場の動向

日本の債券市場動向を表す代表的な指標であるNOMURA-BPI総合は、2月26日比で0.39%上昇しました。日本債券市場は、利回りを求める投資家が投資妙味の残る超長期ゾーンへの投資を積極化したことから上昇しました。1日に実施された10年国債入札は、マイナス利回りにも関わらず一定の投資家需要が確認できる結果となったため、債券市場は上昇幅を拡大させました。長期金利の指標となる10年国債利回りは、2月26日比で上昇(価格は下落)の-0.04%となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 8日 景気ウォッチャー調査(2月)

など

	2016/2/26	2016/3/4	変化幅
日本10年国債利回り*	-0.07%	-0.04%	0.02%

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

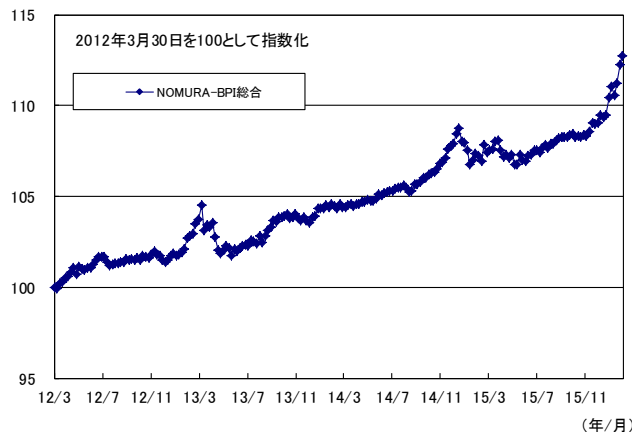
先週の騰落率

0.39%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2016年3月4日



NOMURA-BPI総合	2016/2/26	2016/3/4	騰落率
	379.71	381.18	0.39%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

NOMURA-BPI総合は、野村証券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他の権利は野村証券株式会社に帰属しております。また、野村証券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

世界の債券市場

市場の動向

世界債券市場の動きを示す代表的指数であるシティ世界国債インデックスは、2月26日比円ベースで、0.07%上昇しました。

米国債券市場(現地通貨ベース)は、2月の米雇用統計における非農業部門雇用者数変化が市場予想を上回ったことなどを背景として、債券利回りは上昇(価格は下落)しました。

欧州債券市場(現地通貨ベース)は、1月のユーロ圏小売売上高が市場予想を上回ったほか、米国債券市場で利回りが上昇したことなどを背景として、ドイツ国債利回りは上昇しました。

為替は、2月26日比で円/ドルレートは円高・ドル安、円/ユーロレートは円安・ユーロ高となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 7日 米消費者信用残高(1月)
- 8日 独鉱工業生産指数(1月)
- 8-10日 米国債入札
- 10日 ECB金融政策
- 10日 米財政収支(2月)

など

	2016/2/26	2016/3/4	変化幅
米国10年国債利回り*	1.76%	1.87%	0.11%
ドイツ10年国債利回り*	0.15%	0.24%	0.09%

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

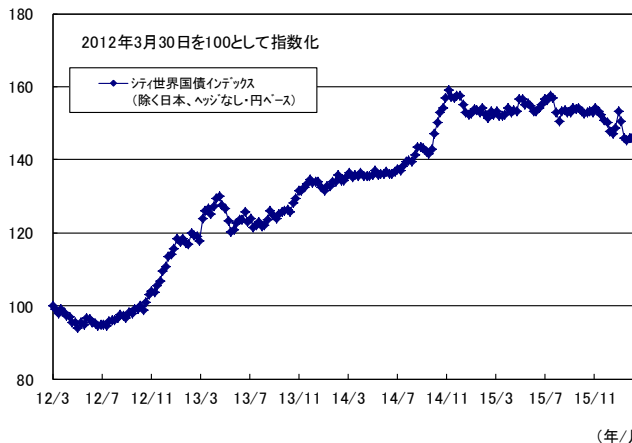
先週の騰落率

0.07%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2016年3月4日



シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	2016/2/26	2016/3/4	騰落率
	444.84	445.16	0.07%
円/ドル	113.93円	113.81円	-0.11%
円/ユーロ	124.48円	125.27円	0.63%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関する全ての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。・REITとは、不動産投資信託証券を指します。

J-REIT市場

市場の動向

J-REIT市場(東証REIT指数(配当込み))は、2月26日比で0.72%下落しました。一部投資家から売りがあったことなどが背景にあります。

国土交通省が発表した1月の新設住宅着工戸数は、前年同月比0.2%増の67,815戸となりました。内訳では持家及び分譲住宅が減少したものの、貸家が増加したため、全体で増加となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 8日 景気ウォッチャー調査(2月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

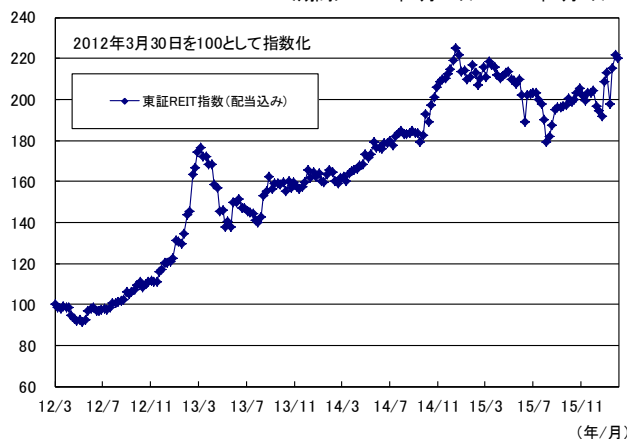
先週の騰落率

-0.72%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2016年3月4日



東証REIT指数(配当込み)	2016/2/26	2016/3/4	騰落率
	3,384.97	3,360.52	-0.72%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

東証REIT指数の指数値及び東証REIT指数の商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、東証REIT指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数に関するすべての権利及び東証REIT指数の商標に関するすべての権利は東証が有します。

世界のREIT市場

市場の動向

世界REIT市場(S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み))は、2月26日比円ベースで、3.64%上昇しました。

米国REIT市場(現地通貨ベース)は、2月の米ISM(サプライマネジメント協会)製造業景況感指数が市場予想を上回ったことや、1月の米建設支出が市場予想を上回る高い伸びとなったことなどが背景となり、上昇しました。

欧州REIT市場(現地通貨ベース)は、1月のユーロ圏の失業率が前月を下回ったことなどから、上昇しました。

豪州REIT市場(現地通貨ベース)は、1月の豪小売売上高が前月比で市場予想を下回ったことなどから、下落しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 7日 米消費者信用残高(1月)
- 8日 独鉱工業生産指数(1月)
- 10日 ECB金融政策
- 10日 米財政収支(2月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

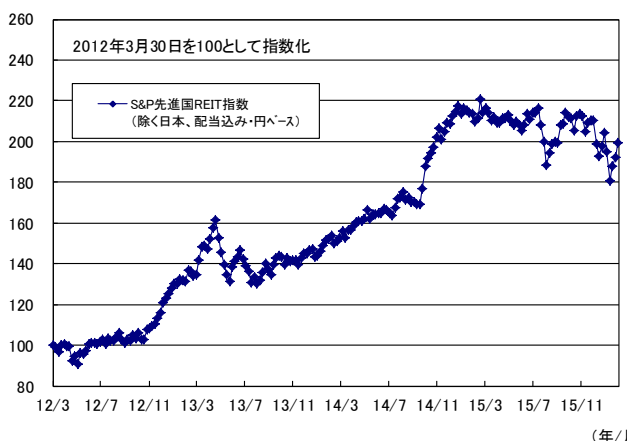
先週の騰落率

3.64%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2016年3月4日



S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み・円ベース)	2016/2/26	2016/3/4	騰落率
	833.33	863.66	3.64%
円/ドル	113.93円	113.81円	-0.11%
円/ユーロ	124.48円	125.27円	0.63%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

S&P先進国REIT指数はスタンダード&プアーズファイナンシャルサービスズエルエルシーの所有する登録商標です。

新興国の株式市場

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

市場の動向

新興国株式市場全体の動きを表す代表的な指数であるMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、2月26日比円ベースで、6.81%上昇しました。

中国株式市場(現地通貨ベース)は、中国人民銀行の預金準備率引き下げや、全人代(全国人民代表大会)を控え、景気でこ入れ策への期待が高まったことなどから上昇しました。

ブラジル株式市場(現地通貨ベース)は、商品市況の上昇や、国営石油会社の汚職事件を巡り、ルセフ政権の退陣が現実味を帯びてきたことで、ブラジル経済の成長促進を妨げている政治情勢の改善が期待されたことなどから、上昇しました。

南アフリカ株式市場(現地通貨ベース)は、プラチナや銅などの商品価格が大きく上昇したことが好感され、資源関連株中心に上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 9日 ブラジルIPCA(拡大消費者物価指数、2月)
- 10日 中国CPI(消費者物価指数、2月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

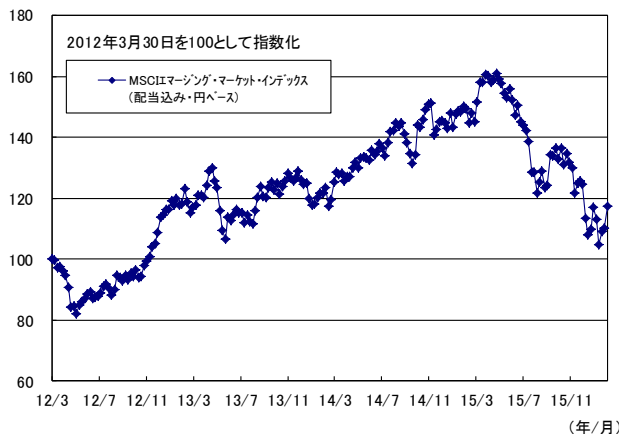
先週の騰落率

6.81%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2016年3月4日



MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み・円ベース)	2016/2/26	2016/3/4	騰落率
	1,436.67	1,534.51	6.81%

<出所>FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

新興国の債券市場

市場の動向

新興国債券市場全体の動きを示す代表的な指数であるJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドは、2月26日比円ベースで、3.80%上昇しました。

ブラジルでは、ブラジル中央銀行が政策金利の据え置きを発表したことなどをを受け、利上げへの期待が後退しました。また、世界的な金利低下が意識されています。このような投資環境の中、同国の債券指数は上昇しました。

ロシアでは、2月のCPI(消費者物価指数)、コアCPIの伸び率が市場予想を下回りました。このような投資環境の中、同国の債券指数は上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 9日 マレーシア金融政策
- 9日 メキシコCPI(2月)
- 10日 ブラジル小売売上高(1月)
- 11日 ポーランド金融政策

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

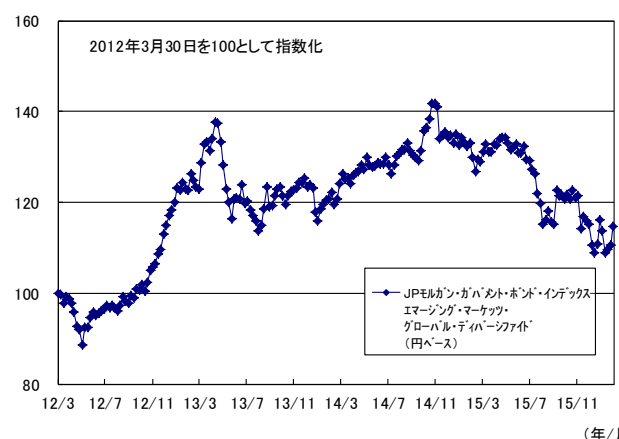
先週の騰落率

3.80%

先週の相場動向



<期間>2012年3月30日～2016年3月4日



JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)	2016/2/26	2016/3/4	騰落率
	226.65	235.26	3.80%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (JP Morgan Government Bond Index-Emerging Markets Global Diversified) は、JP Morgan Securities LLC が公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

【野村アセットマネジメントからのお知らせ】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし、投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

■投資信託に係る費用について

2016年3月現在

<p>ご購入時手数料 《上限4.32%(税込み)》</p>	<p>投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。投資信託によっては、換金時(および償還時)に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。</p>
<p>運用管理費用(信託報酬) 《上限2.1816%(税込み)》</p>	<p>投資家はその投資信託を保有する期間に応じた費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 *一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 *ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。</p>
<p>信託財産留保額 《上限0.5%》</p>	<p>投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。</p>
<p>その他の費用</p>	<p>上記の他に、「組入価値証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧下さい。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

商号:野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会:一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。